

副会頭が支部を訪問し管内企業・団体と意見交換

支部運営委員会議

今般、新型コロナウイルス感染症による影響を各地域の実情に照らし把握することを目的に、各支部にて運営委員会議を開催した。

中央支部（支部長:今津由雄 今津建設(株)取締役社長）には尾野副会頭、東神戸支部（中島洋人 東洋ナッツ食品(株)代表取締役社長）には植村副会頭、西神戸支部（吉田真也 ハニー化成(株)代表取締役社長）には國井副会頭がそれぞれ参加し、地域の窮状に耳を傾けた。

運営委員からは、行政の各種コロナ支援策に対し一定の

評価はあるものの、「店舗におけるコロナ対策のルールが不明瞭」などの苦言も聞かれた。

また、都心部と郊外の店舗とで客足の戻りに差が生じたり、業務用商材が落ち込む一方、ネット販売が伸びるなど、地域や業種によって、抱える課題や対応に格差が生じていることが伺えた。

副会頭からは「コロナを正しく恐れ、共存していく新たな経営手法が必要になる。地域目線に立った意見要望を行政に具申ししていきたい」などコメントがあった。



中央支部 (7月28日)



東神戸支部 (7月29日)



西神戸支部 (8月4日)

中小企業振興部

8.6

ウィズコロナ、アフターコロナに向けたAIのビジネス活用を考える

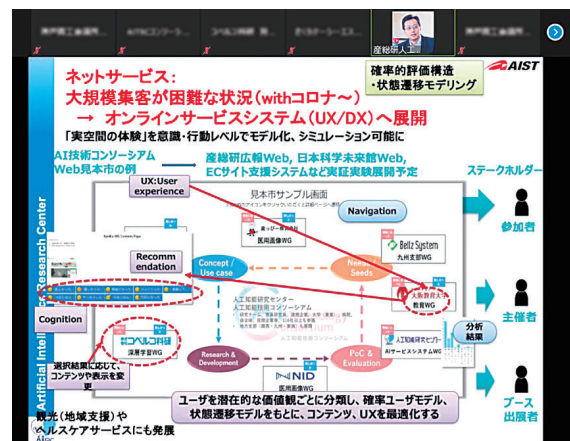
産業・社会のデジタル変革 (DX) とAI技術の社会実装への取り組み

当商工会議所が事務局を務める(国研)産業技術総合研究所人工知能技術コンソーシアム(AITeC)神戸支部ワーキンググループは、オンラインによるAIのビジネス活用セミナーを開催した。

はじめに、本村陽一AITeC会長が「産業・社会のデジタル変革(DX)とAI技術の社会実証への取組み」をテーマに講演。新型コロナの影響により、ますますDXは進展していくと説明し、「ウィズコロナ・アフターコロナの時代はデジタル化が必須。従来の勘と経験による意思決定ではなく、実社会のビッグデータに基づいた意思決定が重要となる」と述べた。

また、「AIの社会実装は着実に進んでおり、AI技術を活用してリアルイベントと同じ価値をオンライン上で提供する実証事業も進みつつある」と解説。今後のAI活用で注意すべきこととして、「単に機械に置き換えるのではなく、『誰の、何のための』という社会的価値志向で取り組むことが重要だ」と指摘した。

事例紹介では、(株)コベルコ科研から、AI技術を活用した画像や機械音の異常検知の研究事例について、(株)さくら



ケーシーエスからは、AIを用いた顔認証とIoTセンサーを活用した在席管理の取り組みについて説明があった。

最後に本村会長より、「オンラインでの活動を余儀なくされ、時間や距離が関係なくなったことで、ビジネスの可能性が広がった面もある。厳しい状況をチャンスと捉え、前向きにDXに取り組んでほしい」と締めくくった。

産業部産業・国際チーム

8.5

ウィズコロナ時代の新たな営業スタイルを学ぶ

オンラインツールを用いたインサイドセールス講座



オンライン商談を成功に導くノウハウの習得を目的に、(株)アフェクトの大倉啓克氏を講師に迎え、セミナーを開催した。

大倉氏は、「外回り営業が困難となる中、今後は内勤(インサイド)での営業力が重要になる」と説明。その上で、実際にオンラインの画面を通じて、話し方や目線の合わせ方という基礎から、効果的なプレゼンやヒアリング手法などについて解説した。また、参加者同士のグループワークも積極的に行い、営業スキルの向上を図った。

会員事業部人材開発チーム

8.19

キャラクターを活用した商品開発・PRを学ぶ

タツノコプロのライセンス活用セミナー



新たな販路開拓・販売促進の手法として、ライセンス活用ビジネスを学ぶため、『ハクション大魔王』や『ヤッターマン』など著名なキャラクターライセンスを保有する、(株)タツノコプロの湯浅光氏を講師に迎え、オンラインセミナーを開催した。

湯浅氏は、「ビジネスにおいて適切なキャラクターライセンスを活用することで、他社との差別化を図るだけでなく、自社商品・サービスのブランド価値を飛躍的に高めることができる」と解説した。

経営支援センター

8.31

海外赴任・出張の現状や課題・対策を考える

海外人事・拠点マネジメントセミナー



海外に拠点を持つ企業を対象に、(株)FJT代表取締役の藤戸善啓氏を講師に迎え、セミナーを開催した。

いまだ多くの国への渡航中止勧告が出ている中で、藤戸氏はコロナ禍では駐在に固執するのではなく、「デジタルの活用で、日本から遠隔管理する考え方もある。そもそも駐在員の必要性もしっかり検証すべき」と語った。

また、海外駐在員の健康管理には「コロナ対策も含め会社が責任を持ち、安心して業務に集中できる環境整備を進めることが重要」と指摘した。

産業部産業・国際チーム

9.2

製造現場の改善手法を伝授

明日から実践可能な生産性向上セミナー



製造現場が抱える、つくりすぎ・手持ち・在庫などを省き、生産性向上を実現するスキル習得を目的に、中小企業診断士の松野修二氏を講師に迎え、セミナーを開催した。松野氏はまず、トヨタ生産方式などを中心に人の動作や設備の稼働率を研究・分析する手法を解説し、現場での問題を論理的に捉え解決策に導くプロセスを提示した。

その後、参加者は、実際の生産現場の映像を見ながら、問題点の抽出や対策の立案のシミュレーションを行い、理解を深めた。

会員事業部人材開発チーム